後 藤 和 民 氏 略 年 譜

1932年　1月　朝鮮半島にて生まれる。

1960年　4月　明治大学文学部史学地理学科考古学専攻に入学する。

1964年　4月　明治大学大学院文学研究科修士課程（考古学専攻）に進学する。

1964年　8月　加曽利貝塚の緊急発掘調査に参加する。

1965年　8月　加曽利貝塚博物館建設準備のため、千葉市教育委員会社会教育課に勤務する。

1966年　3月　明治大学大学院修士課程を修了する。

4月　千葉市教育委員会社会教育課博物館建設準備室に勤務する。

6月　兼坂古墳（若葉区加曽利町）の発掘調査を担当する。

7月　蕨立貝塚（若葉区坂月町）の緊急発掘調査に参加する。

11月　千葉市立加曽利貝塚博物館が開館する。館長代理学芸員として勤務する。

12月　新山古墳（若葉区加曽利町）の発掘調査を担当する。

1967年 10月　菱名貝塚（緑区平山町）の発掘調査を担当する。

1968年　7月　加曽利貝塚の野外施設における遺構の保存科学的研究を開始する（東京国立文化財研究所による指導）。

11月　宝導寺台貝塚（中央区都町１丁目）の発掘調査を担当する。

1969年　9月　群馬県桐生市で単身土器づくりを行っていた新井司郎氏を訪ねる。

10月　へたの台古墳群（中央区仁戸名町）の発掘調査を担当する。

1970年　4月　新井司郎氏を嘱託職員として迎え、縄文土器製作技術の共同研究を本格的に開始する。

8月　加曽利南貝塚の第１次遺跡限界確認調査を担当する。

9月　すすき山遺跡（若葉区殿台町）の発掘調査を担当する。

10月　千葉市史編纂事業の一環として、大椎城跡（緑区大椎町）の測量調査および市周辺の関連遺構所在調査を担当する。

1971年　2月　加曽利南貝塚の第２次遺跡限界確認調査を担当する。

6月　加曽利南貝塚の第３次遺跡限界確認調査を担当する。

1972年　5月　加曽利貝塚博物館において、市民公募による「土器づくりの会」を開始する。

9月　加曽利南貝塚の第４次遺跡限界確認調査を担当する。

12月　千葉市史編纂委員として『千葉市史』通史編（原始古代中世）の編集・執筆を行う。

1973年　3月　新井司郎氏（1971年9月に急逝）の遺稿をもとに『縄文土器の技術』を編集・執筆する。

5月　加曽利南貝塚の第５次遺跡限界確認調査を担当する。

1974年　4月　千葉県文化課の千葉県貝塚遺跡詳細調査の委員として、県下の縄文貝塚の現地踏査を行う。

6月　『千葉市史』資料編（原始古代中世）の編集・執筆を行う。

1978年　4月　千葉市教育委員会文化課へ異動。千葉市の史跡整備計画の策定を担当する。

駒沢大学文学部史学科の非常勤講師を兼務する（1981年3月まで）。

1979年　4月　千葉市史跡整備計画策定委員会が設置され、その運営を担当する。

1980年　3月　『史跡整備の現状と問題点』（千葉市教育委員会）を編集・執筆する。

1980年　7月　荒屋敷貝塚（若葉区貝塚町）の緊急発掘調査を担当する。

1982年　3月　『千葉市史跡整備基本構想』、『史跡整備の方法－縄文貝塚の整備』（共に千葉市教育委員会）を編集・執筆する。

1985年　3月　『千葉市史跡整備基本計画』（千葉市教育委員会）を編集・執筆する。

1985年　4月　千葉大学文学部学芸員養成課程の非常勤講師を兼務する（1988年3月まで）。

1986年　4月　加曽利南貝塚の整備に伴う予備調査、地下レーダーによる貝層分布の把握を行う。

1987年　4月　加曽利南貝塚の環境整備のための予備調査として、泥炭層における花粉分析を委託する。

1988年　8月　加曽利南貝塚の貝層断面観覧施設建設のための発掘調査を担当する。

1990年　4月　加曽利貝塚博物館の館長に就任。創価大学教育学部の非常勤講師を兼務する。

1992年　3月　千葉市を定年退職。創価大学教育学部の専任教授に就任する。

2002年　3月　創価大学教授を定年退職。後藤和民教授頌寿記念論文集編集委員会により『フィールドの学―考古地域史と博物館―』（白鳥舎発行）が刊行される。

2007～2009年　明治大学リバティーアカデミー教養・文化講座の講師として、縄文文化や貝塚、中世城郭をテーマに講義を行う。

2009年　3月　千葉市立加曽利貝塚博物館友の会主催のシンポジウム「千葉の縄文貝塚に学ぶ」で、講演「加曽利貝塚はどう守られたのか」を行う。

2009年 11月　8日逝去。享年77歳。

後藤和民氏の経歴については、氏の古稀を祝って刊行された論文集『フィールドの学―考古地域史と博物館―』（2002年 白鳥舎）に自身で記された詳しい年譜が掲載されている。今回は、氏の千葉市役所勤務時代の業績を中心に取り上げた。

後 藤 和 民 氏 著 作 目 録

※出版社・発行機関名が記載されていないものはいずれも当館発行

一般書・専門書

1978年 8月 『シンポジウム 縄文貝塚の謎』 新人物往来社（共著）

1979年 8月 「狩漁撈の技術と変遷」『日本考古学を学ぶ(2) 』有斐閣選書 有斐閣

1980年 7月 『縄文土器をつくる』中公新書582 中央公論社

1981年10月 『縄文人の謎と風景 原日本人一万年の空白を埋める』 廣済堂出版

1982年 5月 「集落 縄文集落の概念」『縄文文化の研究』第８巻 社会・文化 雄山閣出版

1983年11月 「縄文土器の製作 製作実験Ⅰ」『縄文文化の研究』第５巻 縄文土器Ⅲ 雄山閣出版

1984年12月 『日本の古代遺跡』18 千葉北部 保育社（共著）

1985年 3月 「千葉県加曽利貝塚―馬蹄形貝塚と貝塚群―」『探訪 縄文の遺跡』東日本編 有斐閣選書R 有斐閣

1986年 6月 「加曽利貝塚の生産と交流」「縄文人の習俗と信仰」『日本の古代』４ 縄文・弥生の生活 中央公論社

1987年 2月 「縄文土器」『森浩一対談集 古代技術の復権 技術から見た古代人の生活と知恵』 小学館（共著）

1988年 4月 「縄文集落論」『論争・学説日本の考古学』２ 雄山閣出版

1989年 4月 「馬蹄形貝塚と縄文社会」『考古学ゼミナール 縄文人と貝塚』 六興出版

1990年 8月 「漁撈集落と貝塚の形成―東京湾沿岸の大型貝塚を中心にして―」『日本村落史講座』第２巻 雄山閣出版

1991年 4月 「関東における貝塚と考古学」『関東の考古学』 学生社

1998年 2月 「縄文時代の造形」『考古学による日本歴史』12 芸術・学芸とあそび 雄山閣出版

2002年 3月 『フィールドの学―考古地域史と博物館―』 白鳥舎（後藤氏の古稀を記念して編纂された論文集）

2009年11月 「巨大貝塚はどう守られたのか」『東京湾 巨大貝塚の時代と社会』 雄山閣出版（座談会記録）

調査研究報告・市史

1968年 3月 『加曽利貝塚Ⅱ 昭和39年度加曽利南貝塚調査報告』貝塚博物館調査資料第２集（共著）

1968年 3月 「千葉市加曽利町 兼坂古墳発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』創刊号

1968年 3月 「千葉市加曽利町 新山古墳群発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』創刊号

1969年 3月 「千葉市平山町 菱名貝塚調査概報」『貝塚博物館紀要』第２号（共著）

1970年 3月 『加曽利貝塚Ⅲ 昭和40・41・42年度加曽利北貝塚調査報告』貝塚博物館調査資料第３集（共著）

1970年 3月 「昭和43年度 野外施設整備調査概報」『貝塚博物館紀要』第３号

1971年 3月 『加曽利貝塚Ⅳ 昭和43年度加曽利北貝塚調査報告書』貝塚博物館調査資料第４集（共著）

1971年 3月 「千葉市仁戸名町 へたの台古墳群発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』第４号

1972年 3月 「千葉市源町 すすき山遺跡発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』第５号（共著）

1972年 8月 「大椎城址の調査(上)」『千葉県の歴史』４ 千葉県

1973年 2月 「大椎城址の調査(下)」『千葉県の歴史』５ 千葉県

1973年 3月 「加曽利遺跡」『日本考古学年報』24 日本考古学協会

1973年 3月 『縄文土器の技術―その実験的研究序説―』貝塚博物館研究資料第１集（共著）

1974 年　3 月　『千葉市史』第１巻 原始・古代・中世 千葉市（共著）

1976 年　3 月　『千葉市史』史料編１ 原始・古代・中世 千葉市（共著）

1981 年　3 月　『集落遺構の保存―その実験的研究序説―』貝塚博物館研究資料第２集（共著）

1981 年　3 月　「昭和 45・46 年度 加曽利貝塚東傾斜面遺跡限界確認調査概報」『貝塚博物館紀要』第６号（共著）

1981 年　3 月　「昭和 47 年度 加曽利南貝塚南側平担部第４次遺跡限界確認調査概報」『貝塚博物館紀要』第７号（共著）

1982 年　3 月　「昭和 48 年度 加曽利貝塚東傾斜面第５次発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』第８号（共著）

1983 年　3 月　「千葉県内における貝塚集落」『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』 千葉県教育委員会

1984 年　3 月　『縄文時代の石器―その石材の交流に関する研究―』貝塚博物館研究資料第４集（共著）

1987 年　3 月　『史跡加曽利南貝塚予備調査概報―昭和 61 年度史跡整備に伴う物理探査および試掘調査報告―』
千葉市教育委員会文化課（共著）

1988 年　3 月　『昭和 62 年度 史跡加曽利貝塚環境整備事前調査報告書』 千葉市教育委員会文化課（共著）

論文・研究ノート　ー考古学　縄文時代ー

1964 年　4 月　「土偶研究の段階と問題点（Ⅰ）」『考古学手帖』22 塚田光発行

1964 年　7 月　「土偶研究の段階と問題点（Ⅱ）」『考古学手帖』23 塚田光発行

1964 年 10 月　「土偶研究の段階と問題点（Ⅲ）」『考古学手帖』24 塚田光発行

1968 年　3 月　「縄文時代集落考（Ⅰ）」『貝塚博物館紀要』創刊号

1969 年　3 月　「縄文時代集落考（Ⅱ）」『貝塚博物館紀要』第２号

1970 年　3 月　「縄文時代集落考（Ⅲ）」『貝塚博物館紀要』第３号

1970 年　9 月　「原始集落研究の方法論序説―とくに縄文時代早・前・中期を中心として―」『駿台史学』第 27 号
駿台史学会

1973 年　9 月　「縄文時代における東京湾沿岸の貝塚文化について」『房総地方史の研究』 雄山閣出版

1978 年　1 月　「貝塚のとらえ方」『月刊考古学ジャーナル』№144 特集･日本貝塚研究 100 年 ニュー・サイエンス社

1980 年　5 月　「縄文集落と貝塚―東京湾沿岸の漁撈活動を中心として―」『季刊どるめん』24・25　JICC 出版局

1981 年　3 月　「縄文土器の研究―その機能と製作の技術―」『月刊文化財』№210　第一法規出版

1981 年　3 月　「縄文時代集落考（Ⅳ）」『貝塚博物館紀要』第７号

1982 年　3 月　「縄文時代集落考（Ⅴ）」『貝塚博物館紀要』第８号

1982 年 10 月　「縄文時代における生産力の発展過程―東京湾沿岸を中心として―」『考古学研究』29-2 考古学研究会

1982 年 11 月　「〈研究法の提言〉 貝塚研究によせて―ミクロ的調査とマクロ的調査―」『古代学研究』98 古代学研究会

1983 年　4 月　「縄文集落の定着性について―東京湾東岸の貝塚と集落を中心として―」『千葉史学』第２号 千葉歴史学会

1984 年　5 月　「縄文時代貝塚研究の現状」『月刊考古学ジャーナル』№231 特集･貝塚研究の新展開 ニュー・サイエンス社

1985 年　3 月　「縄文時代集落考（Ⅵ）」『貝塚博物館紀要』第 12 号

1985 年　5 月　「馬蹄形貝塚の再吟味―東京湾東沿岸における縄文集落の一様相について―」『論集日本原史』 吉川弘文館

1986 年　3 月　「縄文時代集落考（Ⅶ）」『貝塚博物館紀要』第 13 号

1988 年　3 月　「縄文時代集落考（Ⅷ）」『貝塚博物館紀要』第 15 号

1988 年　3 月　「貝塚とは何か」『千葉市立加曽利貝塚博物館開館 20 周年記念特別講座講演集』

1988 年 11 月　「縄文時代の塩の生産」『月刊考古学ジャーナル』№298 特集･塩の生産 ニュー・サイエンス社